

いろんなことを教えてくれた友達

和泉市立いぶき野小学校

6年 飯田 麻穂

私は、四年生の時、引っ越しをして、「S小学校」という学校に転入しました。S小学校は、私がそれまでいた学校と違って「なかよし学級」という障がいのある子供達のクラスがありました。

五年生のクラス替えの時、初めて「Aちゃん」という女の子と出会いました。私は、Aちゃんに会うまで障がいのある人と、積極的に話したことがなかったので、内心「仲良くできたらな。」とドキドキしました。

みんなが自己紹介をした後、少しして、Aちゃんは、自分のかばんを持って、廊下に出ました。

「Aちゃんは、どこに行くのかな。」

と他の友達に聞いたら、

「なかよし学級だよ。」

と教えてくれました。

「なんでいくの？」

ともう一度友達に聞いてみると、

「このクラスの勉強は、難しい部分があるから、その時だけなかよし学級に行ってるんだよ。」

二十分休みになると、Aちゃんが帰ってきました。そしてお道具箱から、折り紙を出しました。みんなは、Aちゃんを中心に、折り方を教えてあげていたのです。私もみんなの輪の中に入って折り紙を始めました。

次の休み時間に、Aちゃんが折り紙を使って何か折っていました。

気になったので、Aちゃんに聞いてみると、「ニャン魔女。」と答えてくれました。私は、「ようかいウォッチ」を弟がテレビで見っていたのを思い出して、「あ！あのキャラクターか。」と分かりました。Aちゃんが折り紙を折り終わった顔を見ると、とてもかっこよく見えました。

紙飛行機大会では、Aちゃんは、オリジナルの紙飛行機を作り、最長の記録を出しました。

Aちゃんは自分で得意なことや好きなことを見つけて頑張っていました。理科の実験では、同じ班でいっしょに実験器具を運びました。体育のハードル走は、高さが小さいものから、少しずつ高くして挑戦していました。時には、Aちゃんがトイレにこもるときがありました。その時、休み時間になったら、みんなが彼女に、

「大丈夫？」

と声をかけていました。

五年生の修了式には、クラスが一心同体となっていました。みんなAちゃんが障がいを持

っているなど差別することなく、ありのままのAちゃんを、受け入れていました。そんな、みんなの一つの大きな心の輪を見ることができたみたいで私は、嬉しかったです。

今、振り返ってみるとAちゃんとは、いろんなエピソードがありました。今考えると、折り紙やいっしょに過ごしたクラスでの時間は、短いように感じます。この築きあげたクラスでの時間は大切な宝物のような時間だったと思います。

このような体験は、他にはできません。この経験を生かしてこれからも、一つ一つの交流を大切にしていきたいです。